

平成 21 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

脳血管障害片麻痺の対象者に対する自動車運転再開評価の実態調査
—作業療法士へのアンケート調査より—

学位の種類: 修士 (作業療法学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系

学修番号 07896606

氏名: 高木 菜穂美

(指導教員名: 井上 薫)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

【目的】作業療法士(以下 OT)による脳血管障害片麻痺の対象者に対する自動車運転再開評価の実態を調査する。現在行われている評価での問題点を抽出し、今後の方向性を検討する。

【方法】自記式質問紙郵送法を用い、関東甲信越の回復期リハビリテーション病棟を有する施設を無作為に 98 施設抽出し、各施設にアンケートを 5 部送付した。脳血管障害片麻痺を呈する対象者の自動車運転再開に関し、評価・支援経験のある OT を対象とした。アンケート内容は、1:作業療法経験年数、2:自動車運転再開評価の状況・取り組み(各施設・OT の取り組み状況、年間評価を実施する件数、評価する能力や機能・用いる評価法や評価基準・根拠)、3:現在の自動車運転再開評価に対する考え(満足度・その理由、改善点・その内容)であった。回答数は集計し、自由記載については KJ 法等を参考に類型化した。

【結果】調査期間は 2008 年 8 月から 10 月中旬であった。()内は%を示す。

98 施設のうち、27 施設より回答を得た。回収率は 490 部中 66 部(13.4)、有効回答率は 64 部(13.1)であった。64 名の作業療法経験年数は 1 から 19 年、平均 5.3±3.4 年であった。

評価を実施する OT の年間の平均評価件数は、1 から 10 件の者が 52 名(81.3)であった。評価の取り組みとして、「個人による指標・手順である」との回答件数は 47 件であり、多くの OT が個人による評価の指標・手順で実施していることが明らかになった。また、OT は検査や観察を用い、対象者の身体機能、高次脳機能、知的機能、心理機能、日常生活活動等を総合的に評価していた。

評価の満足度では、満足している 64 名中 2 名(3.1)、満足していない 35 名(54.7)、どちらともいえない 23 名(35.9)、回答なし 4 名(6.3)であった。満足していない、どちらともいえない理由としては、「評価が個人の経験や判断に委ねられていること」、「評価法や評価基準が不明確であること」等が挙げられた。

評価の改善点では、改善点がある 64 名中 49 名(76.6)、ない 2 名(3.1)、回答なし 13 名(20.3)であった。挙げられた内容は「評価法・評価基準の明示」「実車・ドライビングシミュレータでの評価の実施」等であった。

【考察】問題点として、評価が OT 個人の経験や知識に委ねられ、実車を用いた評価を行っていないため、現在の自動車運転再開評価に問題意識を抱いていることが分かった。今後の方向性として、自動車運転再開評価に関する OT の知見を集積し、経験・知識の共有を図る機会を設けていくこと等が考えられた。